

平成 30 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100058		
法人名	(株)嘉麻の杜		
事業所名	グループホーム 嘉麻の杜		
所在地	福岡県嘉麻市下山田715番地13		
自己評価作成日	平成30年10月16日	評価結果確定日	平成30年11月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成30年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、山や田畑等の緑豊かな自然に囲まれており、四季の風景を楽しめる所にあります。嘉麻の杜理念でもある「我が家」としての機能を果たせる場の提供を充実させ利用者の機能をできるだけ維持できるように調理の下準備・配膳・盛り付けなど積極的にお手伝いして頂いている。春祭り、敬老会、クリスマス会の催事はご家族の皆様にも好評で、外出レクリエーションは季節感を満喫するとともに外食を楽しんで頂いている。これからもご家族や地域の方々のご意見を承りながら利用者の皆様が安心して楽しく過ごして頂けるよう、職員一同、信頼される施設を目指していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある「安らぎと温もりのあるひとつのおおきな家族」を目指し、入居者のできることを大切に、生活習慣が継続できるように支援している。日頃から訪問診療・訪問看護との良好な連携で体調変化や重度化の予防に努めているが、訪問日の朝、発熱して協力医療機関を受診した入居者が昼食時にはホームでおしゃべりしながら食事をされたり、冗談を言い合う姿に驚かされた。管理者は、職員の動線や物の配置等の工夫で職員の負担の軽減に配慮し、職員同士の良好なコミュニケーションもあり、ここ1年職員の離職は無い。家族が出席しやすい日曜日に開催されている運営推進会議は身体拘束適正化委員会も同時に開催され、会議などで管理者は家族に「共にホームを育てていただきたい」と話すなど、家族との信頼関係づくりを目指している。また、災害時には近隣住民の避難所としてホームの活用を市に申し出る等、地域密着型サービスの展開が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム嘉麻の杜**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の方がゆっくりと過ごして頂けるよう居室の温度、湿度管理などを行い、マメに声掛けする様努めている。	理念にある「安らぎと温もりのあるひとつのおおきな家族」を目指し、年間の事業計画を作成している。入居者のできることを大切に、生活習慣が継続できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市から派遣される相談員の方が定期的に来所され、その方達と楽しく2時間ほど過ごされている。今年から地域の明見寺にお願いし、秋の彼岸供養を行った。	隣接するグループホームと共同で行っていた敬老会などの行事をホーム単独で行い、保育園児との交流が継続している。入居者と文化祭の見学に出かけたり、地域の清掃活動に参加している。入居者の近隣の方が来られる機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大きな行事の祭りごとなどは声掛けしているが認知症の人の理解や支援の方法は地域へ向けて発してはいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や避難訓練報告など行っている。家族から出た質疑応答にはその都度サービス向上に向けて努力している。	毎回、家族が出席しやすい日曜日開催の運営推進会議を全家族に案内し、複数の家族が参加している。身体拘束の適正化委員会も同時に行い、現状を報告し家族や行政の意見をいただいている。開催日を日曜日の午前中として、入居者家族から喜ばれている。	地域密着型サービス事業所として、区長や民生委員など地域代表の参加の呼びかけや、運営推進会議の会議録の公表をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	嘉麻市からの案内があった時は出来る限り参加するようにしている。判断に迷う事があればすぐに相談させて頂いており、其の都度的確な回答を頂いている。	介護相談員の訪問が継続されている。市担当者に夜勤や職員の配置等を相談し、市からは入居の問い合わせがあるなど、日常的に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では、「身体拘束ゼロ」を宣言し実行している。年6回開催する運営推進会議にて毎回議題にして報告している。職員は年2回の研修会を行っている。	市から職員体制に応じた玄関の施錠についてアドバイスを受けている。「帰りたい」と言う入居者の気持ちに寄り添い、見守りや声かけ、一緒に外に出ることで落ち着いた生活が送れている。夜間のポータブルトイレへの介助の仕方等を話し合い、情報を共有してケアの統一を図り、拘束の無い生活を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回の勉強会を開き、ミーティング等で言葉使い等について話し合いを持ったりして防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての制度等を学ぶ機会が少なく、職員全員が把握、理解できてない。	現在、成年後見制度を活用されている入居者が1名おられ、家族の来訪はあるが、毎月の金銭などの報告は後見人の弁護士にしている。日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修機会がない。	入居契約時などに、日常生活自立支援事業や成年後見制度を説明するために資料を整備し、学ぶ機会を設けられることを期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約では理解しやすいように具体的に説明を行い、疑問点等の質問にはその場で対応を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族の来所時にご意見・ご要望を伺っており、其の都度サービス向上に向け努力している。	敬老会やバーベキュー大会等の行事の際は家族と一緒に食事をし、職員と家族が何でも言える関係づくりを目指している。管理者は家族に「共にホームを育てていただきたい」と話し、運営推進会議や来訪時に意見を伺っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常の業務や月1回のミーティング時に、職員から出た提案や意見を事業主に報告し、反映している。	毎月のミーティングで意見や提案を話し合っている。管理者は効率的な会議運営のため、事前に検討事項等を職員に通知し、意見を出しやすくしている。提案された空気清浄機のフィルターの清掃やポータブルトイレへの介助の方法等を実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の勤務状況等を把握しており、向上心を持って働けるよう勉強会等に参加する費用は会社にて負担してもらっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別での差別はなく、お互い助け合っで働きやすい職場になっている。職員採用にあたっては、採用基準として「介護に対する情熱」を重視している。	開設以来の職員も在職しており、ここ1年間職員の離職は無い。職員同士の良好なコミュニケーションで、子育て中の職員や病気療養中の職員に配慮し、勤務時間や夜勤回数などシフト変更を全職員が納得している。年間の研修計画に添って毎月、内部研修を実施している。資格取得を目指す職員にシフトの配慮や資格手当で支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングの中で利用者に対する接遇教育が行われている。	年間研修計画に添って、内部研修を実施している。理念に「本人の意思を尊重します。」と明記されているとおり、食事の時間や入浴の際には本人の思いが優先されて、柔軟な対応がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社年数の浅い職員には特に研修に参加する機会を設けている。(認知症サポーター講座・市主催の研修会等) その他事業所内では、ミーティング時に状況設定を課題として、介護技術の基本を勉強している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	隣接する檜の郷との合同敬老会、秋祭り、慰問によるレクリエーション等で、意見交換や交流を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報収集により職員間の共有を計り、傾聴する事で本人の安心感を確保している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の情報収集で、ご家族の不安解消が出来るように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の意思を尊重し、ご家族とご本人が何を必要としているかを考え対応させて頂いている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の要望や出来る事は声掛けしながら手伝って頂いたりして、職員も一緒に行い家庭生活の延長として捉えている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時や電話で最近の様子や生活ぶりを具体的にお伝えし、情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所からの面会があればいつでもお顔を見せに来て下さいと声をかけている。彼岸には近隣のお寺より来て頂き、関係が途切れない様になっている。	仕事帰りに訪れる家族もあり、家族や友人の訪れも多い。家族との外出だけでなく、家族の了解のもとで地域の友人と出かけたり、親族の葬儀に参列される入居者もあり、馴染みの関係が継続されるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方、お話されない方等」が孤立しないように職員が利用者同士の共通の話題を声掛けして自ら話をされてお互いが共感を持つよう支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も入院先のお見舞いや、代わられた施設への訪問も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人の希望や意向をお聞きし、ミーティングでの話し合いをしたり、その時に応じて緊急対処している。	入居者たちは日々の思いを口に出しているが、真の思いを見極めたいと入居者との信頼関係づくりに努めている。ミーティングでは入居者の心身の状況等の情報を共有してケアの統一を図っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報提供の他に、訪問客にもご本人についてのお話を伺い生活史の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間毎に個人記録を行い、入居者の心身の状態の把握に努めている。また隔週2回の訪問診療、訪問看護で健康管理も行っている。夜間の特変時には訪問看護に連絡し指示も仰いでいる。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	訪問時に家族、ご本人から意見を聞いてはいるが担当者会議やケア会議がまだ不十分な状態である。職員間や訪問診療、訪問看護の連携を充実し、介護計画をすすめている。	職員の気づきや介護記録の情報に基づき、介護計画の作成や見直しをしている。動きや排泄状態が悪化して退院された入居者も、ホームの生活でどうにか入院前の状態に戻らせている。	全職員でモニタリングを実施し、より具体的な介護計画の見直しで、チームケアの充実を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等に「関しては個別記録に記入している。重要な事は看護記録や申し送り連絡帳に記載して、職員間で状況を把握している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者の中には仏壇を持っていらっしゃる方もいらっしゃるのでは彼岸には近所のお寺より彼岸供養をして頂いている。2人ほどご家族の了解を得て週2回、訪問マッサージ施行を行っている。2～3か月に1回訪問カットを行う。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市から派遣されている相談員が定期的に来て頂いたり、近くのお寺より彼岸供養して頂いているが、まだ地域資源の協働に関しては十分ではない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日赤病院と医療連携にて、訪問診療・訪問看護を隔週行っている。救急時には訪問看護の指示を受けたり、必要があれば入院が出来る体制が取れている。他にも3か月毎の眼科往診、必要時の歯科往診をしている。	訪問診療・訪問看護との良好な連携で、体調変化や重度化の予防に努めている。訪問日の朝、発熱した入居者を協力医療機関に搬送する管理者の姿があったが、昼食時にはホームで元気におしゃべりしながら食事をされ、冗談を言い合う姿には驚かされた。専門医の受診は家族だけでなく、職員が同行することもある。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が気づいたことは訪問看護へ伝えて相談し、適切な対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日赤病院と医療連携しており、時には運営推進会にも参加して頂き、日頃から連絡を取っている。利用者の入院や退院後の事についての話し合いが出来ている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や週末のあり方については入居時の説明にてご理解をさせて頂いており、入院時には主治医・ご家族・職員同席のもと十分な話し合いを行っている。	入居契約時に、重度化や終末期の対応を説明し、家族が納得されて医療連携の主治医と話し合いを行っている。訪問看護師が緊急連絡に対応し、医療依存度の高くなる時期の見極めに関わり、職員たちとの支援体制がとられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者ひとりひとりの病状把握については、訪問看護の看護師より指導を受けているが、新規職員に対しては心肺蘇生・AED等の指導が不十分である。今後の課題として早急な講習を受けられるよう努力する。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器訓練・通報訓練・夜間想定避難訓練等行っている。現在自治会への入会をしているものの、地域との協力体制については十分とは言えず、協力体制の構築に努力して行く。	年に2回、入居者と一緒に避難訓練を実施している。1回は夜間想定訓練を行い、居室の存在確認のために不在時は名札を裏返す等の工夫を実践している。AEDをリース契約にし、メンテナンスや講習を定期的に行えるようにしている。	自治会へ避難所としての協力体制の申し入れをされ、AED設置の周知で地域防災体制の構築を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護を行う上での基本的なこと「言葉遣い、接遇」など日頃から職員間で話し合い、守ることに心掛けている。	入居者の中には難聴の方もおられ、その方に応じた声の大きさやトーンで話しかけている。入居者は全員、苗字で呼びかけ、自己決定できるような言葉かけに配慮している。居室のプライバシーを確保して来訪者とゆっくり過ごせるよう支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほとんどの入居者は自分の口で意志・希望を伝える事が出来ており、自己決定も大方出来ている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、入浴など決められた時間はあるが、その他の時間は入居者の自由に経過して頂いており、本人の要望がある時はそれに添えるよう支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診や外出時には普段着と着替える事でメリハリをつけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立や、家庭菜園で取れた野菜を調理に使ったり、食材の下準備・配膳・配食、食器洗いや拭き等、職員と一緒にしている。	食材の買出しに職員と出かけることもあり、食事作りの下準備や配膳等を手伝っている。職員1名が同じテーブルを囲んで検食し、おしゃべりしながら、楽しく食事されている。他の職員は見守り、さり気なく支援している。外出時には外食が楽しみになっていて、誕生会やバーベキューなどで食欲を高める献立が検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事が出来る事を念頭に、献立を立てるよう心掛けている。また、十分な水分が取れるように職員は声掛けを行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕は習慣がついておられるが、昼食後の清潔保持が確立してない。入れ歯使用の方は夜間は洗浄剤に漬けられる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の習慣や生活パターンを把握し1人1人の支援をおこなっている。	トイレでの排泄をできるだけ支援し、状況に応じて居室をトイレの近くに変更することもある。排泄が自立している入居者にも声かけや見守りを行い、夜間はベッドの足元にセンサーを設置してポータブルトイレでの排泄を支援する入居者もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護婦の指導の下、繊維食品の積極的な取り入れや水分補給の声かけを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯や曜日に関してはまだ出来てないが、入浴の方法に於いては個々の要望に添った支援を行っている。	週3回を目途に入浴を支援している。身体状況に応じて2名で支援したり、シャワー浴を行っている。入浴拒否のある方には、時間を空けたり、トイレの帰りのタイミングに声をかけるなどで、入浴ができるように対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに添えるよう支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態報告と共に服薬目的や副作用について話し合いを行い、処方変更時には申し送りや連絡ノートに記載し、職員に周知している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下準備、洗濯物たたみ、脳トレ、季節の壁紙工作など、個々の能力に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出や外食、隣接の施設との合同慰問など、利用者が楽しめる様な支援を送っている。	今年も予定していたコスモス見学は中止になったが、延期して外出する予定である。家族や友人と出かけたり、親族の葬儀の参列や墓参りに出かけられる入居者もある。食材の買出しに職員と一緒に出かけたり、ドライブや外食を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクリエーション時には自由に買い物ができるようにしており、ご自分のお好きな物を購入する支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時は直接電話して頂いたり、職員が代わりに用件をお伝えしている。ご家族や知人に年賀はがきや暑中見舞いを書いて頂き、職員が代わりに投函している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に壁飾りを制作したり、加湿器・空気清浄器・エアコン等で部屋の快適さの調整を行っている。夏場は朝顔やゴーヤのカーテンを作り季節感や心地良い生活ができるよう工夫している。	明るく、開放感のあるリビングに2つのテーブルが置かれ、ソファが配置されている。壁には保育園児が作成したコスモスの花の壁飾りが貼られて季節を感じることができる。広い廊下の天井は天窗で明るい光が差し込み、浴室は脱衣所が広く快適に温度や換気が配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームに食卓とソファが置いてあり、それぞれが思いの場所で話をしたり、電動マッサージ機を使用されたり自由に過ごして頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参されたり、仏壇など持ち込まれている方もおられる。室内には家族の写真を飾られたり鉢植えの水やりをされたりする。	各居室に空気清浄機が置かれ、居室の壁に白寿のお祝いの大きな似顔絵が飾られたり、自分で作った手芸の作品やシクラメンの鉢を飾り、仏壇やタンス等を持ち込んだ居室もある。入居者一人ひとりが自分らしい部屋で寛いで過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、手すりを設置しており、各居室にはネームプレートで解かり易くしている。		